



講師の尾田さんが実演指導



切った麺を持ち帰り用の箱へ



美味しいラーメンが出来ました

小林公民館の手打ちラーメン教室は年1回の開催で、今年度は2月9日(土)に9名の出席で開催されました。

受講者は、講師の尾田さんと一緒に、まずは麺づくりに取り掛かりました。混ぜてこねて丸めたら、ねかせます。発酵を待つ間に具材の用意を済ませたら、いよいよ麺を完成させます。

中力粉を使った麺はなかなか伸ばせず、苦労していた受講者も、「引くときに力を入れて」との尾田さんのアドバイスで次第にコツをつかみ、1時間ほどで麺切りまでを終えました。

最後に、尾田さんの打った麺を各自でゆでて、試食を楽しみました。

手塚正江さん(小林)に聞きま

した。

Q 教室を何で知りましたか?
A 広報紙で知り参加しました。

Q 参加した感想は?
A 手打ちのうどんやそばを作ったことはなく、公民館教室も初めて参加しました。楽しかったし、皆さんと知り合えたので良かったです。

美味しいラーメンに大満足の教室でした。

2年にわたって連載した公民館の教室紹介は今回で終了しますが、平成25年度もいろいろな教室を開催します。6ページからの「公民館事業の紹介」を参考に、あなたも参加しませんか。きつと新しい出会いと発見が待っていますよ。

参加者の声

②③手打ちラーメン教室(小林公民館) ※最終回

公民館の教室・講座紹介

〒321-1431 日光市山内 2388-3 TEL: 50-1200
ホームページ http://www.khmoan.jp/

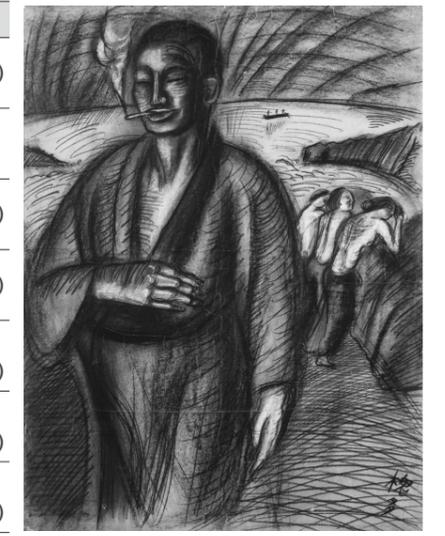
(1枚につき、5名様まで有効)
小杉放菴記念日光美術館

切り取ってご利用ください

平成25年度展覧会のご案内

展覧会名	開催期間
1 selection 2013 小杉放菴	4月13日(土)～5月26日(日)
2 selection 2013 般若塚・黒崎家の扇面コレクション	6月1日(土)～7月7日(日)
3 生誕120年 木村荘八展	7月13日(土)～8月25日(日)
4 所蔵作品撰 国立公園の絵画展 前期(仮称)	9月14日(土)～10月27日(日)
5 所蔵作品撰 国立公園の絵画展 後期(仮称)	11月2日(土)～12月23日(月・祝)
6 山崎省三・村山槐多とその時代(仮称)	平成26年1月1日(水・祝)～2月16日(日)
7 絵を見る愉しみ	平成26年2月22日(土)～4月6日(日)

開館時間: 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日: 毎週月曜日(祝日の場合は開館し、翌日を休館)
○館内メンテナンス休館 8月26日～9月13日
○年末休館12月24日～31日、年始休館1月6日～8日
入館料: 一般…700(300)円、大学生…500(200)円、高校生以下…無料
※()内は市民割引券を利用した際の料金です。



村山槐多「のらくら者」 1916年 横須賀美術館所蔵

KOSUGI HOAN MUSEUM OF ART, NIKKO
小杉放菴記念日光美術館

歴史民俗資料館通信

日光市中央町29-1(今市図書館隣) ☎0286-217
開館時間 午前9時～午後6時(入館無料)
休館日 毎週月曜日、祝日



◆企画展紹介① 「飢饉を乗り越える」

今回の企画展では、主に江戸時代の飢饉を扱います。

飢饉とは、農作物が実らず食糧が不足することで、江戸時代にもたびたび起こり、人々を苦しめてきました。

江戸時代最悪の飢饉として知られる天明の飢饉では、東北地方全体で30万人ともいわれる餓死者が発生する惨状でした。

ここまでの惨状は日光では確認できないものの、今日まで残された古文書などから多くの村が疲弊していったことが分かります。

しかし、当地の人々は飢饉にただただ困り果てていたばかりではありません。

何とか状況を打破しようとさまざまな努力と手段を尽くして、たくましく乗り越えてきました。

また、飢饉に対して危機感を持ち、それに備えていたことも分かっています。

現代と江戸時代では社会状況が大きく異なりますが、こうした過去の人々の姿勢から学ぶべきことは多くあります。

この企画展を通して、困難な時代に生きた日光の人々の力強さを知っていただくとともに、現代に生きる私たちの周りに潜む危機について考えるきっかけとなることを期待します。

◆町谷村飢人帳
元禄12(1699)年に、町谷村の困窮者を書き上げ日光目代に報告したものです。76軒の百姓すべてが夫食(米穀)に困り、身売りや子売りが多数行われていたことが分かります。



町谷村飢人帳

◆催し◆
◆企画展「飢饉を乗り越える」
4月6日(土)から6月30日(日)

市民文芸

川柳 選者 山本都留米

世の中の喧騒忘る露天風呂 青木照雄
豪雪ですべり転んで尻をつき 植田義雄
福豆が腹にもたれる年となり 白土武夫
吹雪く夜小犬も添い寝夢うつつ 神山常治
金でなく財布の厚みは診察券 渡辺春男
終冬も間近か弥生の音を聞く 櫻沢あき子
巢立つ子へ贈る名言守り神 篠原芳子

俳句 選者 伊藤清

如月の風腰痛に耐へがたし 渡辺ミチ子
鈍色の空の重さよ牡丹雪 星野シズ
思ひ出のごとし柵田の斑雪 名古屋佳月
滑らかなペンの走りや春立ちぬ 星野恒志
外灯にきらりと光る軒氷柱 徳本英子
読む本のいつしか倒る春炬燵 酒井智恵子
稜線のうすく煙りて春隣 福田美代子

短歌 選者 阿久津伸一

淡雪の今来し庭をふり返る歩幅の狭き摺り足の跡 根立郷美
九十二の母の回復願いつつ心新たに除夜の鐘つく 狐塚昭子
凧の上がり村のにぎわう三ヶ日年ごとに減る子等の歓声 阿久津利秀
ふる里のからす止りの山の道想ひ出し居りまどろむ夢に 赤羽根よ志
両膝の手術の麻酔覚めし窓に夢と希望の陽光差し込む 北崎君
山を背に手入れされたる庄屋敷大谷石倉絵画のごとし 青木照雄
雪掻けば助かりますと言ふ声に疲れも忘る寒き夕暮れ 植田義夫

作品を募集しています!

川柳・俳句・短歌を募集しています。氏名(ふりがな)、住所、電話番号を明記して、郵送またはFAX、メールでご応募ください(二重投稿は不可)。

なお、作品中の漢字には、ふりがなを明記してください。

応募先及びくわしくは
秘書広報課 広報広聴係
☎(21)5135 FAX(21)5109